原子力界シニアによる大学生等との対話を通したエネルギー教育の普及
（２）対話活動の実践―美浜町での実施例

2009. 8. 9.
エネルギー環境教育学会2
第4回全国大会

＠福井大学

〇金氏顕（ＳＮＷ）、石井正則（ＳＮＷ）、伊藤睦（ＳＮＷ）、松永一郎（ＳＮＷ）、吉田淳（愛知教育大学）

（注）SNW：日本原子力学会シニアネットワーク連絡会

１．はじめに

福井大学教育地域科学部学生とのシニアの対話に福井県美浜町の小中学校の教員も加えて、３世代間でかつ学生、教員、シニアという異なる立場、立地地域と消費地域の対話という大変ユニークで初めての対話を実例として発表する。

２．立地町で対話を始めた経緯

- 福井大学教育地域科学部とＳＮＷの対話を企画、同大学エネルギー教育研究会より、地元福井県美浜町で既に平成１９年度から小中学校でエネルギー環境教育を推進している教員も交えての対話としたいと提案があった。
- そこで、美浜町教育委員会と相談したところ、このような対話の実施により、参加する学生、教員の外、教員が指導する小中学生に対しても、エネルギー問題と原子力の役割について自分たちの問題として身近に感じることができるとして賛同していただき、更に地元原子力関係各組織の全面的な協力を得た。

３．対話会の全体計画

１）日時：2月21日（土）10:00～17:00

２）会場：株式会社原子力安全システム研究所(美浜町)

３）主催：日本原子力学会シニアネットワーク連絡会（ＳＮＷ）、共催：福井大学エネルギー教育研究会

４）協賛：文科省敦賀原子力事務所、美浜町教育委員会、関西電力、原子力安全システム研究所、日本原子力研究開発機構、若狭湾エネルギー研究センター

５）参加者：70名

美浜町立小中学校教諭：15名、福井大学、福井工大教員、学生：22名、ＳＮＷシニア：10名（原子力関連企業、研究機関等のＯＢ）、来賓、オブザーバー：23名（松田美夜子原子力委員、美浜町長、電気事業連絡会、原子力学会学生連絡会、広島商船高専教員、広島県元中学校校長、美浜町教育委員会）

当日のスケジュール

午前：開会＆来賓挨拶（30分），
　基調講演「岐路に立つエネルギー資源問題」（70分）質疑応答（20分）

午後：対話の進め方、（10分）、
　グループ対話（昼食、自己紹介含め）（170分）
　休憩・発表まとめ（20分）
　グループ別成果発表・質疑（60分）
　指導・講評（30分）
　閉会挨拶（10分）、
　事後アンケート回答記入（15分）
　懇親会（会費制、100分）

対話テーマ

事前の関係者打合せで、地元の方々の意見により次のように決めた。

共通基調テーマ：「立地地域に於けるエネルギー環境教育の中の原子力教育のあり方」

グループテーマ：

A：原子力についての必要な知識とは？
教員、生徒（小学生、中学生）向けに。

B：保護者の中に原子力関係者がいるクラスでどう教えるか？

C：原子力関連外部機関（推進、慎重）がどう係わるか？
中立的に教えるとは？

D：原子力の安全やリスクをどう教えるか？

E：立地地域としての誇りを持たせるには？

５．今回の対話会の特徴

- これまでの対話の相手は“学生”が主体であったが、今回は小中学校の先生が主体で、それに先生の卵の学生が参加、また大学の教育系や原子力系の教員がファシリテーター、またオブザーバーには原子力関連機関ということで、“エネルギー教育”をキーワードとして、原子力界と一般社会の世代（3世代）、地域（立地、消費地）、立場（教育、原子力事業者またはOB、学生）を超えての対話となった。

- 美浜町は原子力立地地域の特性を生かした学習を、文科省の先進的原子力教育の推進地域として推進している。町長、教育委員会が先頭に立って、町全体で原子力を含むエネルギー環境教育を平成18年度から小学校（7校）低学年から中学校（2校）まで一貫したカリキュラムで教育を進めている。このカリキュラム作成や教員研修には福井大、関西電力、ＪＡＥＡ，ＩＮＳＳなどが支援している。今回もそのための研修という位置づけであった。

（http://www.town.mihama.fukui.jp/kyouiku-g/19-3-28.html）

６．総括と反省点

１）これまでの対話からは次元を異にする難しい企画だったが、案ずるより生むがやすしで、11月と2月10日の2回の事前会議と約4ヶ月の準備を経て実施に漕ぎ着けた。最も苦労したのは、趣旨や目的についての関係者間の意思統一であった。

２）対話の対象が、既にエネルギー環境教育を実践している先生方と原子力については白紙に近い学生の間で原子力の知識の差が大きく、対話になるのか？も課題であったが、福井大で事前に原子力の基礎の講義を関電とINSSにやっていただいたのは効果があった。

３）対話のテーマについては、参加された15名の先生方には、何故このようなテーマなのか？と疑問に思った方もおられたようだ。次回は先生方の意見も取り入れる必要がある。

６．総括と反省点（つづき）

４）グループ対話は小中学校先生3名、学生3名、SNW2名、ファシリテーター（福井大教員）1名、オブザーバー（地元原子力関係機関など）3名、計12名で、バランスが取れていたと思う。ファシリテーションの応用にはまだ改善の余地がある。

５）美浜町の先生方は原子力立地町でのエネルギー環境教育推進を町教育委員会の方針として行っているが、考えに微妙な違いがあるように見受けられ、立地地域に於ける複雑な町民感情を垣間見た。次回は更に対話を深化させて、先生方にとってより価値のある研修となり、またＳＮＷや大学にとって原子力の社会受容性向上活動のヒントにしたい。

開会挨拶:山口美浜町長

基調講演:金氏代表幹事

グループ対話

グループ発表

講評:松田原子力委員、懇親会

謝辞

会の運営には、美浜町、福井大、関電、INSS、JAEAなどに全面的に支援いただき、大いに感謝します。関係者の賛同を得て、今年度もぜひ開催したい。